

面会重親ボランティア  
新たな心の支え  
笑顔を取り戻す

仙台でシンポ

病院や施設で暮らす障  
害児・者を対象にした  
「面会重親ボランティア  
制度」について考えるシ

ンポジウムが十一日、仙  
台市青葉区の市シルバ  
センターで開かれた。既  
に取り組みを始めている  
岩手県から講師を招き、  
県内での制度導入の可能  
性を探った。  
NPO法人「県重症心  
身障害児・者を支援する

会」が主催したシンポに  
は重症障害児・者の親  
の会や福祉関係者約五  
十人が参加。父母の死亡  
や高齢化によって面会に  
訪れる親類が途絶え、心  
の支えを失った障害児・  
者を、里親が励ましたり  
する支援策を話し合っ  
た。

国立病院機構釜石病院  
で面会重親ボランティア  
を行っている「じゃくな  
げ愛育園の会」の村上寿  
朗会長が活動を報告。入  
所者のうち約二十人が身  
寄りがいないと孤立して  
いる現状を説明し、「子

どもたちが笑顔を取り戻  
せるよう、宮城でもボラ  
ンティア制度創設を進め  
てほしい」と呼び掛けた。  
パネル討論も行われ、  
障害児・者の母親からは  
「自分が死んだ後に障害  
のある子どもがどうなる  
のかを考えると不安でい  
っぱいになる。自分たち  
が生きていくうちにボラ  
ンティア制度を創設した  
い」と話した。



障害児・者の父母が切実な思いを訴えたシン  
ポジウム